

とびしま未来 協議会通信

2013.11.15

第 8 号

とびしま未来協議会
Conference of the Tobishima island future
since 2011.5

TEL: 0234-26-2381

飛島総合情報サイトができました
<http://tobishima.info/>

facebook とびしま未来協議会



午前 8 時、佐渡島北方沖を震源とする M8.5 の地震が発生した。その 3 分後、大津波警報が発表されたが、本土と離島・飛島と連絡は取れなくなっていた。訓練は、このような想定で行われた。(2013 年 10 月 31 日)

報告 第 6 回 三島交流会

飛島・粟島・佐渡、三島の連携を考える

飛島・粟島・佐渡、三島の連携を考える

二〇〇七年にはじまった三島交流会も、早いもので三巡目を迎え、第六回として再び飛島から新たな道のりがはじまりました。

昨年度の粟島交流会の際に「三島交流会は重要で継続していくことには異論はないが、高齢化の進む中、各島の島民の負担が軽減するように工夫をしていくことが重要である」ことが話し合われ、開催時期については、飛島島民が参加しやすく天候のよい時期として、初月の月末の開催となりました。

また、今回の運営にあたっては、従来の「とびしまコミュニティ振興会」に加えて、共催として「とびしま未来協議会」も加わり、酒田・飛島において事前の計画段階から二回にわたる実行委員会と二回の事前事後の小ミーティングを開催し、よりよいものを目指してきました。とびしま未来協議会が運営に加わったこと、懇親会の食事については「海鮮どんやとびしま」からお弁当をお願いし（島からは、さざえ、イカの一夜干しを提供）、初日の昼食は「しまかへ」のカレーを食べていただくことで、従来よりも島民の負担感が軽減したという声をいただくうれしく思っています。

その他、島の見学としては、今年度は遊覧船四隻をお願いして、島めぐりを実施し大変好評でした。また、宿泊は今回は民宿にお願いするなど、より多くの島の方々に関わっていただくようにしました。

参加者は、計九一人。飛島島内からの参加者も

多数あったこともうれしい限りです。

さて、今回のテーマは「三島の連携を考える」。今まで六回にわたって各島の島づくりの状況を互いに学びあった上で、新たにこれから三年間をかけて、小さなことでもよいのでより実地的な協力関係を築いていこうというものです。各分科会では、この三島連携を意識しながら話し合ってもらいました。

具体的には「三島の食材を持ち寄ったラーメンなどのメニュー開発」「三島スタンプラリー」「三島の合同観光パンフレットの作成」「各島の観光パンフレットを、それぞれの島で紹介する」「三島のパネルを展示する」「三島を中心に、昔あった離島こどもサミットを開催する」などのアイディアがさまざまな場面で出されましたが、実現に向けては今後話し合っていくこととなります。

その他の内容としては、最初の全体会（齋藤作代さん司会）において、今年度から佐渡・花の島プロジェクト実行委員会の新会長に就任された久文勝巳さんから「三島の花の保全と観光くこれからの三島の連携に向けて」の基調講演をいただきました。

その後、今年度から施行された各島に関する「離島振興計画」の報告や島の近況報告を行いました。なかでも、粟島が

飛島・粟島・佐渡／三島交流会 in 飛島

真剣に、楽しく、美味しい時間になりました。

今年度からはじめた「離島留学」では、中学生三名がホースセラピーなどの効果もあり、島においてたくましく育っている様子が印象的でした。飛島からは、三年前の三島交流会で参加者が植えたトビシマカンゾウの苗が育ち、花を咲かせているスライドが映し出され、会場を盛り上げました（佐藤環さん報告）。

分科会では、「自然保全」「漁業」「観光」に分かれて議論を重ねました。印象的な話題を挙げると次のようになります。

《自然保全》近年外来植物によって島内の自然植生に影響が出始めている。野生動物（例えば粟島のシカ）も同様。人口の減少によって人の手が入らなくなり自然遷移が進んでいる、など。

《漁業》海水温の上昇など気候変動による漁場環境への影響が懸念され始めている。粟島の磯焼けは深刻で藻場保全の取り組みに力を入れている。飛島でも近年磯焼けの兆候が見え始めているのではないかと。藻場や漁場の保全とともに人材・後継者育成も大きな課題である。

《観光》わっぱ飯（粟島）、磯ダコツアー（粟島）、漁師まるごとツアー（飛島）、海水浴場の整備（飛島）、たらい舟（佐渡）、トビシマカンゾウ（佐渡）など三島がそれぞれの島が取り組んでいる観光について、現状や課題を報告。相対的に観光客が減少している状況にあるが、三島が連

携して島の魅力を発信する努力の必要性を確認。

最終日の天保そば・ごいも収穫感謝祭では、丸山至酒田市副市長も来島しご挨拶いただきました（丸山副市長は、以前公益大の事務局に向かいあっていた経験の持ち主です）。また、幻の山形天保そば保存会、庄内酒彩俱樂部、とび魚だしプロジェクト（公益大・農工連・漁協）、とびしま漁村文化研究会、NPO法人パートナーシップオフィスからも近況報告をいただきました。

そして今回、大好評だったのが、飛島の若者の発案で実現した天音里望さんのステージです。前日の懇親会に引き続き、収穫感謝会でも「飛島育ち」をはじめとする演歌を披露していただき、飛島に対する天音さんの思いが伝わる熱いステージとなりました。最後には「三島の虹の架け橋となります」と自ら宣言。今後、三島交流等での他島でのステージや、島をテーマにした演歌づくりの可能性も広がっています。

会の最後は、例年の通り、島民と公益大生による「飛島音頭・小唄」です。佐藤環さんがぜひとも続けていきたいと、飛島の若者や島を初めて訪れた公益大生も、前日に特訓を受けての披露となりました。



した。

来年度へ向けての話し合いとしては、予定通り佐渡で十月十三日（月）・十四日（火）に開催することが決定されました（場合によっては翌週の可能性もあり）。また、分科会の話し合いをより充実したものにするために、事前に各島から話し合いたいテーマを出し合い、報告準備をして臨むことになりました。

他島で開催される三島交流会に参加されたことのない島民の方々にとっては、馴染みの薄い行事かもしれません。飛島のクリーンアップが粟島でも開催されるようになったり、粟島で島としては全国に先駆けて導入した緑のふるさと協力隊が、飛島でも導入されるきっかけになるなど、目に見えないところで互いの島づくりに影響しあっています。

改めて、三島交流会の運営に島民の多大な協力をいただいていることに感謝申し上げます。今後ともご参加、ご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

呉尚浩（とびしま未来協議会事務局長）



飛島ブースのメンバー。張り切って島のPRをしてきました

仙山交流味祭 in やまがた

存在感じゅうぶんな飛島の味



去る十月二十六日、二十七日に山形駅西口広場にて「仙山交流味祭 in やまがた」が開催され、とびしま未来協議会が飛島ブースを出展しました。島の方々を中心に、多くの方に応援を頂き飛島をPRすることが出来ました。

数日前までは、強力な台風が二つ直撃する予報で心配していましたが、どちらも上手い具合に逸れてくれました。しかし、一日目の天気はあまり良くなく、お客さんの数は例年よりも幾らか少ないようでした。それでも、毎年恒例の漁師の焼いたサザエのつぼ焼きは、美味しいにおいを漂わせ、明るく元気な若者たちの声は、傘の下に隠れた人々を振り向かせていました。それに加え、今年は飛島小中学校同窓会と飛島観光協議会に寄贈して頂いた飛島大漁旗や、新しいデザインののぼりとテーブルクロス、商品開発された新しいお土産などが、勢いある飛島ブースを作り出していました。

二日目になると空模様も良くなり、お客さんもぞろぞろと来場します。飛島ブースも賑わいを見せました。サザエのつぼ焼きも本領

発揮。あつあつサザエは次々に売れていきます。そして、今年は新しい武器「トビウオだしの玉こんにゃく」も用意しました。これが美味いと大好評。玉こんにゃく自体は珍しくないけれど、やつぱりトビウオだしは美味しいのです。とびうおバナナやトビウオの焼き干し、トビウオだし麺つゆも好評でした。昨年に引き続き「飛島や」も販売しました。

ブースの前に立っていると、「飛島行ったことあるよ」と話しかけてくる方々がたびたびいました。最近島を訪れた人もいれば、三十年も前に来られた人もいました。人口が減少していく飛島ですが、島に関わる人は数えきれないほどに存在していることを実感しました。そして、その人たちは口を揃えて「飛島はいいところだった」と言うのです。

数えきれない人によって作られた「いいところ」が、また来年飛島をPRしに行ったときにも、変わらないであることを願っています。

(松本友哉)



とびしま未来協議会の事業として昨年オープンした島づくりの拠点「しまかへ」に引き続き、今年も定期船発着所近くの芝生公園の一角を借り、「島のカフェスペースしまかへ」がオープンしました。昨年の六十八日間の営業から、今年は四月二十七日から九月三〇日までの一三〇日間に期間を延長し、五八〇〇人を越える方においていただきました。島民の皆さまをはじめとして、たくさんの方に支えていただきました。ありがとうございます。

四月中旬からしまかへの改装に取り掛かり、飛島で干し物をするときに使われている、ノマ（簀）を日よけ用の屋根に使ったり、しまかへのロゴで大きな布製の看板やのぼりを作ったり、観光客の目をひくような工夫をしました。

しまかへのメニューも一新し、昨年好評だった「イカのにんにく焼き」「飛び魚バニ

島のおもてなし

わたなべようこ
渡部陽子



4月26日の「しまかへ口明け前夜祭」で行われた餅まき



ゴド口浜ランチプレート

「アイス」「ごどいもバター」等に新たに数種類のメニューが加わりました。その一つとして、主食とおかず、スープが一枚のプレートに乗ったセットが好評でした。イカとゴドイモの二種類のカレーがメインの「ゴド口浜プレート」やイカがまるごと入った「パスタがメインの「御積島プレート」、岩のりおにぎりがメインの「荒崎プレート」の三種類で、飛島の食材を使った日替わりメニューと、島の地名を付けた名前が特徴です。

また、カフェとしての役割だけではなく、飛島の観光案内や交流の場として利用してもらうために、口明け前夜祭、尺八・三味線演奏会、夜光虫・ペルセウス座流星群の観望会、聖地巡礼ツアー、三島交流会での昼食提供、東北高校合宿への協力など、しまかへを会場にした大小様々なツアーやイベントを企画・実施しました。普段なかなかしまかへに来られない島民の方が来てくださったり、お客様のうちで新たな交流の輪が生まれたり、イベントを開催することに新しい発見があります。

さらに、夏休み中の子供たちが体験できるように、さざえキャンドル作りや夜光虫観察は随時申し込みを受け、実施しました。

二年に渡り営業していく中で、しまかへは島づくりの拠点になりつつあります。カフェ機能の他に様々な可能性が感じられる場所です。今後も、ご指導・ご協力をお願いいたします。

平成 25 年度
第 3 回とびしま未来協議会

会議録

平成 25 年 9 月 27 日 (金)
11:20 ~ 12:45

於・とびしま総合センター

一 開 会 (進行 間宮)

二 会長あいさつ

三 協議事項

(一) 三島交流会について (報告)

○参加者九十一名

(粟島八名・佐渡八名・飛島島民三十七名・山形県二名・酒田市六名・大学教員二名・庄内酒彩倶楽部一名・とびしま漁村文化研究会一名・天音里望関係者三名・公益大生二十一名・事務局二名)

○来年度の日程 十月十三日(月)・十四日(火)か翌週で調整。場所は佐渡。

○詳しい内容については、協議会通信で報告。

○今後の分科会について 各島より話し合いたいテーマを事前に提出いただき、内容を充実してい



奥尻島富里地区に築かれた 11 メートルの防潮堤



奥尻島の小学校では定期的に防災学習が行われている

きたいと考えている。

○粟島では今年から離島留学を始めている。飛島でもいづれ検討していければと思う。また、粟島の小中学校と教育交流も出来ればと思う。

(二) 仙山交流味祭 in やまがたについて

○日時 十月二十六日(土) 二十七日(日)
午前十時〜午後三時

○場所 山形駅西口広場

○内容 飛島や、トビウオの焼干し、サザエつぼ焼き等の販売、島の食文化のPR

(三) アイランダー2013について

○日時 十一月二十三日(土) 午前十時〜午後六時
二十四日(日) 午前十時〜午後五時

○場所 池袋サンシャインシティ文化会館

○内容 詳細については検討中

※(二)(三) は飛島のPRがメインである。ご協力いただける方は、事務局まで連絡いただきたい。旅費、宿泊費は協議会で負担するが、日当はなし。島に関連する人への個々の宣伝もお願いしたい。

※【報告】澤口啓さん(飛島小中学校同窓会)、観光協議会より、イベントや行事で活用して欲しいということで、大漁旗を二枚ご寄贈いただいた。

(四) 防災計画づくりの取り組みについて

○呉事務局長、岸本さんほか大学関係者五名で先進地である奥尻島に四日間視察(実質二日間)。

○北海道南西沖地震から二十年経っての復興の様子を報告(岸本)。お金をかけて防潮堤等をつくったことで、日常的に海と生活との距離が離れ、後継者が育っていない現状が印象的。

○奥尻島では「語り部活動」を始めている。ぜひとも来年度、飛島で奥尻島の漁師の方のお話を聞きたい。

○防潮堤、避難場所、避難路の整備、ダムが決壊した場合なども想定して検討していただきたい。

○以前話し合った福祉と避難所を備えた山の拠点についても検討しながら、来年の防災計画づくりを考えていきたい。

(五) その他

特になし

四. その他

○加工所、トイレの設置について説明（総合支庁、阿部）

《加工所について》

・若者の冬の就労への支援策として、飛島の加工整備を支援していく。（県）

・現在、島民が作っている品目とは重ならないように注意する。（県）

・従来の商品に付加価値を付けた商品開発も大事である。加工ということでは自分がこれまでやってきたことと被るところがある。冬季の仕事がないのは老人も同じ。（島民）

・補助、管理先は合同会社とびしまを想定しているが、島民との共用のあり方については、食品衛生法で誰でも使えるということはできない。登録制にするなど、これから調整を取りながらやっていきたいと思っている。（県）

・県知事が来島された時に話があり、若者を島に定着させるための支援策として話が進んでいたようで、私も最近話を聞いた。（会長）

・事業主体は県であり、若者への支援策として協議会にも応援していただけたらという事でお話させていたいただいた。（県）

・限られた若者はすべて協議会など人的に重複してお



澤口啓さん（飛島小中学校同窓会）と飛島観光協議会より、大漁旗2枚を寄贈いただきました。今後、各種イベント等で活用させていただきます。誠にありがとうございました。

り、さまざまな誤解が生まれる事は仕方がない事である。試行錯誤しながらも未来の飛島にプラスになるように応援していければと思う。飛島出身の若者もそういった動きに参加できるように配慮して欲しい。（島民）

《トイレの設置について》

○渚の鐘の近くに、トイレを設置することが報告された。

○離島振興六十周年記念で百周年を迎えた女性消防隊を推薦し、表彰されることが決定。十一月に表彰式がある。（酒田市）

○飛島ブランドロゴについて、飛島のPRロゴの紹介、説明。仙山交流、アイランダーで消費者の意見を聞きながら、最終的に決定していく。（松本）

○しまかへについて

今月末で閉店となる。
三十日に秋のいも煮会（閉店感謝祭）を四時から六時半まで行うので参加して欲しい。（渡部）

○とびしま漁村文化研究会より

十月六日酒田で開催する飛島学講座「渡り鳥と飛島」の案内。飛島学叢書『飛島の磯と海』を全戸配布予定。

○しまかへの資産目録について

以前の会議で話があった、資産目録については、五万円以上で資産目録として登録するものはないが、太鼓、プロジェクト、アンブなどは協議会事務所にあるので、借用を希望する人は連絡いただきたい。

五 閉会

果樹

のおはなし

File. 3

梅津 智恵
うめつ さしえ

稲刈りが終わった庄内平野に白鳥が飛来し、鳥海山の裾野もすっかり晩秋の装いとなりました。今年の秋は寒暖の差が大きかったせいか、一段と紅葉も鮮やかで美しい景色が各地で見られたようです。紅葉狩りや味覚の秋を満喫した方もきっと多いことでしょう。

錦繡の秋の森の中を歩いたり、庭に咲く花々を眺めたりするだけで、心穏やかな気分になった経験はありませんか？これは植物の色や形、香りなどが、人間を癒す効果を持っているためです。特に香りは、古くから癒しの手段として用いられてきました。日本では仏教の伝来とともに香木が中国などから入り、心身浄化や心の平安を得るため、儀式中に香木が焚かれました。その後、平安時代に貴族の嗜みとして「薫物」が発展し、江戸時代には香りを楽しむ「香道」が一般庶民にも広まりました。

最近では、ヨーロッパで生まれたアロマセラピー（芳香療法）が日本でも盛んになり、アロマポットに好みの精油を垂らして香りを楽しむ人も増えています。数多くの香り

かんきつの香りで幸せ気分



試験栽培が行われている島の畑では、たくさんのスタチが実を付けました

の中でも、特にかんきつ系のグレープフルーツ、レモン、スウィートオレンジなどの香りは、幸福感や心の充足感を引き出す作用があるそうです。そのため代替医療の現場では、医薬品ではケアできない「心の中」を香りによって癒す試みが行われています。また、かんきつ系の精油には体液のバランスを整え、脂肪の代謝を促進する作用を持つことがわかり、これらの美容的効果も注目されています。

去年の夏、かんきつ類の試験栽培のために、飛島でスタチの苗をお配りしました。その時に島の方々が見せてくれた、新たな植物を育てる期待に満ちた素敵な笑顔を、私は忘れられません。その後も、実に楽しそうにスタチの世話をされている姿を見かける度、私も愉快的気分になりました。植物を育てることもまた、人間に喜びや癒しを与えてくれます。かんきつ類を育てることは、香りの癒しも加わって、より健康的な効果がありそうです。

皆さんが心をこめて世話をした下さったお蔭で、今年初めて飛島の鉢植えスタチが実りました。思いのほか多くの収穫に恵まれて、嬉しい限りです。秋深まる飛島の食卓にスタチの香りや彩りが添えられ、心と和むひとときになったのではないのでしょうか。来年も、元気な飛島の皆さんとスタチに会える日を楽しみにしています。①